

矢作川流域圏懇談会通信

R1 市民部会編 vol.1



発行日：令和元年 8 月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 4 回市民部会を開催しました！

今年度最初の市民部会 WG では、昨年度の活動について振り返りを行い、その後今年度の方針について意見交換を行いました。また、9 月 8 日に開催される矢作川感謝祭に向けて、矢作川流域圏懇談会や矢作川の情報を発信する手法について話し合いを行いました。

日 時：令和元年 7 月 31 日（水）14:00～17:00

会議場所：豊田市崇化館交流館 4 階 第 2 会議室

参加者：11 名（事務局含む）



◆主な会議内容

1. これまでの市民部会の活動について

昨年度の市民部会では、「ごみ・流木」「土砂」「木づかい」の3つの流域連携テーマについての活動を振り返り、市民が矢作川流域の情報に触れる機会が少ないことが課題として挙がりました。そのため、市民部会メンバーで考えた流域の優れた点や問題点などの意見を地図上に列記し、空間的に情報を把握できる「流域マップ」を作成しました。また、流域マップ上の意見を過去と現在、さらには将来という時間軸に対して、良い点と悪い点という評価を行い、「カテゴリズ表」を作成しました。第3回市民部会では、市民部会（市民会議）の9年間の活動をまとめるとともに、今後の方向性を明確にするために「標語」を作成しました。最後に、平成31（令和元）年度以降の市民部会の目標やWGで取り組みたいことについて意見交換を行いました。

2. 今年度の活動方針について

昨年度のWGでは、「地域部会に横串を通す存在」となり、「市民部会が地域部会合同の勉強会を提案する」ことを目標としたいという意見があがりました。そこで、今回のWGでは「地域部会間で連携して解決したい課題」について市民目線で意見を出し合い、勉強会の内容の検討を行いました。

まずは、「何を勉強会のテーマとして取り上げるべきか」、「そもそも連携して解決するとは何をゴールとしているのか」という勉強会の開催意義が話し合いの的となりました。そのような話し合いの中で、流域圏懇談会の現状として、『各地域部会が抱える課題』は、各地域部会の中では共有できていますが、『他の地域部会も含めた流域圏懇談会全体の共通認識となっていない』ことが、そもそも今解決するべきことではないかという結論に達しました。

そこで、今後の活動方針として、**各地域部会が抱える課題を流域圏懇談会全体の共通認識とすべく、矢作川を巡るバスツアー**の計画を行うことになりました。バスツアーに向けた今後の活動方針は以下の通りです。

- ①各地域部会から、他の地域部会へ紹介したい・知ってほしい事柄を募集する。
- ②上記①であげた事柄を紹介するための場所を募集する。
- ③集めた意見を基に、各場所を巡るバスツアーを計画する。
- ④次年度以降に、バスツアーを開催する。

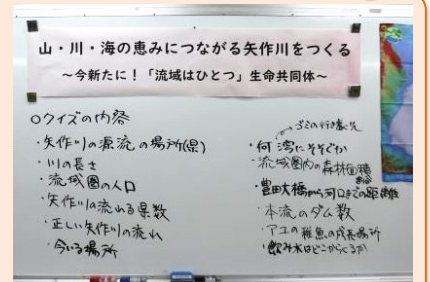
このバスツアーの各地点における解説は、それぞれの地域部会に担当をしていただく予定です。

3. 矢作川感謝祭における懇談会のPRについて

2019年9月8日に矢作川感謝祭が豊田大橋の下で開催されます。今年度は、矢作川流域圏懇談会のブースを出展するとともに、部会メンバーが壇上に上がり、懇談会の紹介を行う予定となっています。

昨年度の市民部会WGの中で、市民が矢作川の情報を知る手段が少ないことが課題としてあげられました。そこで、多くの市民が参加する矢作川感謝祭において、懇談会の活動を紹介するだけでなく、矢作川の情報や山・川・海のつながりを参加者に理解してもらうために、情報発信の方法について意見交換を行いました。

一つの案として、懇談会の紹介の中で知り得た情報をクイズとして出題し、正解者には景品を贈呈することがあがりました。WGでは、市民部会メンバーが発信したい情報からクイズの案を検討しました。



クイズ案の検討

◆話し合いでの主な意見

(・意見 ▶回答)

●今年度の活動方針について

- ・「地域部会間で連携して解決したい課題」を考える前に、何をすることが連携となるのか考える必要がある。(光岡)
 - ▶ 連携しなくてはいけないことは、具体的な事柄ではなく、まずはお互いに理解することである。(山本)
 - ▶ 連携として必要なことは、それぞれの部会が抱えている課題、もしくは他部会と関連した課題の単なる情報共有ではなく、情報を共有したうえで共通認識とすることである。昨年度に合同部会を開催したが、地域部会間で対立した状況が続いている。お互いに理解することが連携になるだろう。(近藤)
- ・水質の問題は、地域部会間がかみ合わない部分があるが、土砂の問題は共通的に意識が持てるはずである。川ではアーマーコート化、海では干潟や浅場の減少が問題となっている。山でも土砂管理の観点から、ダムが満砂してしまつては、山の人も困るという状況がある。(近藤)
 - ▶ 土砂は3つの部会共通の課題として、見方受取り方が違うことがわかった。各地域部会間で解決してほしい項目に少しずつズレがある。部会間での違いをそれぞれの部会が認識することが共通の課題である。(光岡)
 - ▶ 土砂問題の一つの解決策として国交省が取り組んだ小渋ダムを視察することも連携の一つとなる。(井上)
 - ▶ ダムがあることを前提とした土砂の適切な流し方を考えたときに共通認識が持てるのではないか。山に必要な土砂は山にためつつ、普段は少しずつ河川に流れていくような土砂の排出量が良いという話もある。排砂バイパスという考えもあるが、土砂に対する山林のあり方について話し合うのもよいかもしれない。(近藤)
- ・他の地域部会のフィールドに対する意見を述べるばかりではよくない。また、今後の目指す流域の姿として、市民レベルの考えと学識者の研究データに基づいた考えの間に差があることは、注意しなくてはならない。(近藤)
- ・土砂の問題において、ダムへの堆砂だけではなく、水量が無くて土砂が流れないことも重要である。良い川の指標としてダイナミズムがあるが、それがなくなってきたことが河床のアーマー化に関係しているかもしれない。(近藤)
- ・明治用水などで水が引かれているが、安城などでは夏に明治用水付近の水路で泳いだりしていた時もあったと聞いている。歴史の中で川として位置づけられ、利用されていると感じている。(沖)
- ・山部会は良い山をつくったときに、下流に対してもたらす成果について発信してもよいのではないか。(井上)
- ・過去に流域圏懇談会が大きく変わったきっかけは、流域の上流から海までを巡ったバスツアーである。そのため、それぞれの地域部会で抱える新たな課題や共通認識として持つべきことをテーマとして組んだバスツアーを開催してはどうか。(近藤)
 - ▶ また、今年度の市民部会の活動では、他部会に知ってほしいテーマとそれに対応する場所を各地域部会に聞きながら、バスツアーを計画するということを目的としてはどうか。(近藤)
 - ▶ 情報共有だけとか、全ての部会メンバーで解決策を話し合うなどテーマごとに目標を設定すればよい。あまり地点が多くなるのも大変であるため、各地域部会から2~5地点程度としたい。(光岡)
 - ▶ ツアーの企画は市民部会がやるが、各場所における解説はそれぞれの地域部会に担当してもらい、これまでの議論の内容を伝えてもらう。事前の勉強を地域部会ごとに行う必要があるかもしれない。(近藤)
- ・矢作川について市民が考える土台を作るために、市民部会から情報を発信できればよい。(井上)
- ・少子高齢化が進行する現状を考慮して、今後の川づくりや地域の体制について考えてみたい。(山本)
- ・流域圏担い手づくり事例集の作成を通して、多くの若者が活動していることが見えてきた。(近藤)



●振り返り

よかったと思うこと：連携して解決したい課題について市民部会として明確化できた。

よくなかったと思うこと：もう少し参加者を増やしたい。/参加要件の緩和と周知。/平日昼間の開催は参加制約の最大要因。

今後取り組んでいきたい活動など：少子高齢化が進行する現状をふまえた矢作川流域での川づくり・地域づくりの提案。

今後の予定

■第5回市民部会 WG

日時：令和元年10月29日(火) 14:00~16:30 豊田市崇化館交流館4階



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 神本、指導員 宇野
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijinet.or.jp) までお送りください。

